

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100265		
法人名	医療法人大和正信会		
事業所名	グループホームふじおか		
所在地	佐賀市大和町尼寺2679-1		
自己評価作成日	令和元年7月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和元年9月19日(木)	外部評価確定日	令和元年10月24日(木)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は常勤7名、非常勤1名在籍しているが全員が介護福祉士を取得しており、過半数が10年以上の介護業務を経験しており、法人内や外部の研修にも計画的に参加し質の高いケアを提供できる体制を整えている。母体であるふじおか病院が隣接しており、医療面においてもサポートできる体制を整えている。ハード面においても1ユニットでこじんまりとしている、開設して6年が経過しているが新築のようにきれいにしているとよく言われるほどであり、木の温もりのある建物、家具類に囲まれ、テラスでは余暇時間を過ごしたり、畑には芋畑があり毎年芋掘りを楽しんでいる。毎月、季節に合わせた行事を企画し、家族さんも一緒に参加出来る行事も定期的実施し参加、交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

通りから一本が入った閑静な立地に、畑や木々が植えてあり、手入れもされている。施設内は木の温もりが感じられ利用者のペースを保つことをケアの基本とされている事業所である。利用者や家族から情報を収集し、得た情報を職員が共有できるように独自で作成した様式を用いている。また、得た情報を活用するために職員が工夫し利用者の個々の生活を支えることが感じられる。日々の暮らしの様子を一人ひとりの日記にまとめて家族の面会時に近況を報告するツールの1つとして活用し利用者だけでなく、家族の安心や信頼につながる取り組みを実施している施設である。医療面も隣接している関連の病院と連携を取り、利用者の体調の変化だけでなくハビリテーションを受けることもできる。経験豊富な職員たちが多く、医療と介護が連携を図り心身ともに充実した生活を送ることができる。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関入り口に貼り出し、職員、家族さんにも共有出来るようにしている。また、日々記録するファイルにそれぞれ裏に理念を貼り付けたり、名前札には小さくラミネート加工した理念を入れ職員間の共有を図れるようにしている。	理念にある「利用者の心身の状況を踏まえ家庭的な環境の下で安心して日常生活が送れるよう援助を行います。」を基本としたケアが職員全員が意識し実践をしている。残存機能を活かすために何を介助するのかを日々のケアから読み取り、会議等で周知徹底されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おたっしゃ本舗大和の実施する地域ケア会議の委員にも選出され3年目となる。毎週土曜日には地域で実施されているラジオ体操に参加し利用者さんも地域の方と顔見知りの関係を築けている。	地域のラジオ体操に利用者と職員が参加し、地域の方々との交流の場になっている。また地域の祭りの案内などの情報を頂くことができ参加することや作品を出品することで、地域との関係性を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議の委員としておたっしゃ本舗大和の職員と協力して活動を行い、多職種ケース検討会を地域の方を招いて実施している。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、入居者の状況報告、職員の研修参加状況を報告、日々の生活状況や活動風景をパワーポイントで写真も掲示しながら報告している。他施設の運営推進会議にも参加し自施設にも取り入れられる事は取り入れている。	管理者の研修で知り合った施設の運営推進会議に参加し、自施設への取り組みに反映するなど積極的な活動がみられる。多くの家族に参加して頂けるように交代制を採用し日常生活や施設の運営状況を伝える工夫がされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、運営推進会議時にはおたっしや本舗大和さんから1名以上は参加してもらったり、おたっしや本舗大和が実施している地域ケア会議には委員として参加、多職種ケース検討会にも定期的に参加しお互いの協力関係は築けている。	地域ケア会議の委員を依頼され、会議に参加し、施設での経験や知識を伝えるなど連携を図っている。市からも色々な情報提供を頂くことで互いの協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束の実施はしていない。今後も予定はない。年に2回の研修会や毎月、身体拘束適正化検討会はGHの会議の時に一緒に実施している。	法人や自施設にて研修に取り組み、法の理解に努めている。調査時には家族の強い要望で車いすの安全ベルトをしている利用者が1名いたが、定期的なカンファレンスと家族への説明を行うなど、身体拘束廃止に向けた取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、法人で実施する勉強会とGHで実施する勉強会の2回虐待防止研修会を実施し参加している。毎月GHIにて実施している会議においてもケアについての検討や行い、会議時に身体拘束検討会を同時に実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員のみであるため、まだまだ成年後見制度についての理解は十分ではない。今後、勉強会、研修会の機会を持って知識の向上を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にオリエンテーションを実施し家族さんにしっかり説明し同意のサイン頂いている。不安や疑問点が無いよう意見や質問を言える機会も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎回、運営推進会議時に交代で家族さんに参加してもらい、意見を日頃の意見を求めたり、毎月実施している行事時に家族さんも参加出来る行事を定期的実施し家族さん同士の交流の機会を設けたり、意見を言える機会を作り、それらの意見を日々のケアや運営に活かしている。玄関にご意見箱も設置している。	利用者全員が日記を書く時間を設け、自分で書くことが出来ない利用者は職員の方で記載される。必要に応じて写真を掲載され日々の暮らしがわかりやすいものとなっている。面会時に状況説明をする際に、ご家族からの意見を集約しケアに反映されている。利用者にも日々のケアから読み取り、また決定権を促し支援されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のケアについての意見は多くあり、日頃のケアに反映しケアの向上に努めている。運営についてはまだまだ職員も運営の基準等についての理解が出来ていなく、意見や提案があまりない。全職員の運営についての理解を今後深めていきたい。	会議の際に個別のケアについて話し合ったり業務や行事についても話し合うことで働きやすい職場を作り出すことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にてキャリアパス基準を設けたり、ストレスチェックを毎年実施、ストレスのある職員には個別で医師からの検査を実施する体制を作っている。給与水準も他介護施設と比べ高く、時間外もきちんと取得でき、有給休暇もしっかり取得出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて毎月計画を立てて研修委員会が研修会を実施している、また、GH内においても定期的にその時に必要な事を研修の議題に挙げ研修会を実施している。職員のレベルに合わせて外部研修にも参加し、計画的に実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の運営推進会議に参加したり、研修会時には他施設の職員との交流の機会にもなっており、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にはまず、家族や本人さんの意向を確認しプランニングを行っている。意向の確認が困難な方であっても日々のケアや面会時の家族さんとの会話で意向の確認を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にはまず、意向の確認を行っている。玄関にはご意見箱を設置したり、毎年家族会時には無記名のアンケートを実施し意向、要望を言える機会を作って、関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前にはアセスメントを実施し開始時には利用者さんに合ったケアを提供できるよう、情報収集し、職員間で情報も共有しケアが出来る体制にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの状態に合わせ個別ケアを実施している、月に1度、GH会議を実施しており、その際にケアについての話し合い、検討事項についての話し合いを行い、ケアの統一や変更を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族さんにも気兼ねなく面会、訪問できるよう環境作りに努め、定期的に行事として家族さんも一緒に参加出来る行事を実施し家族さん同士の交流の機会にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの既往歴を調査、生まれ故郷、育った場所、趣味や職歴などを調査し、日頃のケアに活かせるようにしている。	利用者の情報収集を行い、施設独自の様式にまとめ、利用者全員の生活歴や嗜好がわかりやすくまとめられている。その様式を活用しコミュニケーションを図ったり、余暇の時間の過ごし方に工夫がみられ自分らしい生活が送れる仕組みを立案されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者さんとの交流を図り、レクや嚙下体操は皆さん一緒に実施したり、コミュニケーションが困難な時には職員が間を取り持つように支援している。寝たきりにならないよう、なるべくホールで過ごすようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族さんへ連絡、利用者さんの状態確認など継続して支援行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	プラン作成時には必ず本人と家族さんの意向の確認を行っている。意思の疎通が困難であったり家族さんも遠慮してお任せしますと言われることが多いが日々のコミュニケーション時の訴えなどを考慮し意向の確認に努めている。また、年に1度、家族会時に無記名のアンケートを実施している。	面会時には必ず職員が話をする時間を設け、日常の会話から要望を吸い上げるように心掛けられている。また、ケアの質を上げることや、運営を改善させる目的で無記名のアンケートを独自に実施され、家族も協力的に記載をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各利用者さんの既往歴、生活歴を調査し把握できるようにまとめ日々のケアに活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	洗濯物を畳んだり、体操参加、大正琴の実施など利用者さんの心身状態や機能に合わせて個別にケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけの意見にならないよう、各利用者さんには担当の職員を付けており、プラン作成時には事前に担当者毎に評価してもらい、担当者の意向も確認しプランニングを行っている。本人さんや家族さんにも事前に必ず意向の確認を行い、訴えがなくても日頃の声かけ時の意見などを反映しプランニングを行っている。	担当の介護職の意見のもと介護支援専門員がケアプランを作成されている。遠方の家族にも電話で説明し同意を頂くなど、必ず説明をされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに記入するのみでなく、毎日、全員分の日記を記入している、職員間の共有のみでなく、カルテなどが見にくい家族さんにも気兼ねなく日記を見て貰い、写真なども定期的に貼付し、日頃の生活状態を理解してもらっている。家族さんとも状態を共有し意見を貰い計画作成に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの個別に合わせたサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの慰問も定期的実施している、まだまだ社会資源も十分に把握できていないので地域資源を理解し活用出来るように今後検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は定期的な訪問診療に来てもらい、異常があれば往診にて駆けつけてきてくれる。入居者の状態も把握しておられ、すぐに対応できるような関係を築けている。	系列の病院と連携をとり訪問診療をしてもらうなど柔軟な対応が可能となり、診察の結果は電話などで家族に報告をしている。他の病院を受診する際には家族が対応する必要がある。隣接する病院のリハビリテーションを受けることもできる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院とは隣接しており、内線でも繋がっている、看護師とも良好な関係を築き気兼ねなく報告できる環境を作れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院は隣接しており、往診や外来受診にて対応できる体制は整っている。何かあれば夜間も内戦ですぐ連絡を取れる体制が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針については入居時のオリエンテーション時に説明行っている、終末期のケアを現在実施したことは無いが看取りが出来る体制は整えており、病院と家族と連携し支援できるように職員も研修に参加し体制を整えている。	看取りの経験はないが、系列の病院と連携をとり痰吸引や点滴が必要な方でも対応が可能。職員も研修に参加し知識の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応のマニュアルを作成している、経験年数も長い職員も多く、協力病院の対応できる体制も整えているので急変時でもすぐ対応出来るような体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火事、防災についてのマニュアルを作成している。年に2回、消防訓練を実施している。春季訓練時には消防署からの派遣を依頼し実施している、秋季訓練時には避難訓練に防犯、防災の訓練も同時に実施している。	関連施設と連携を図り、火事や水害に対してのマニュアルも整備されている。防犯の研修なども実施され地震対策としてつっぱり棒を取り付け非常時に備えた対応ができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけはもちろん、常に対応も丁寧に利用者さんの尊厳を守ったケアに心掛けている。	声掛けの際には目線を合わせるなど接遇を大切にされている。法人内での研修に参加し職員への周知や実践ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向の確認を行っている。趣向調査し食べたい物やケアにおいても声かけ、自己決定の機会を作りケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活でもある為ある程度の日課、予定を作成しているが、当日の天候や職員の人員で外出をしたり、テラスで過ごしたり、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて過ごしやすい普段着で過ごしてもらっている。誕生日会等にはお化粧をしたり、マニキュアをしたりする時もある。その際には鏡を見て良い表情をされている、写真を撮って記録にも残しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの嚥下状態に合わせた食事形態を提供している、軟菜、刻み食、嚥下食の対応し安全な食事が出来るように努めている。定期的に趣向調査を行い、意向に沿った食事会を実施している。	通常は、ご飯とみそ汁のみ自施設で準備され、主菜等は関連施設からの届く食事を提供されている。独自食として月に1度、利用者の要望を聞き自施設で作る取り組みをされている。また手作りでおやつを作る機会を設け楽しみを提供されている。食事の際は必要に応じて職員が介助を行い、食後にはカテキン茶などを使用し口腔ケアも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食と10時と15時の水分補給については摂取量の記録をしている。毎月1日には体重測定を実施。管理栄養士のメニューにて栄養バランスも良い食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者さんの状態に合わせて口腔ケアを実施している。嚥下状態合わせ吸引器を使用したICUブラシにてケア行っている利用者さんもいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者さんの状態に合わせた排泄ケアの方法、オムツの種類を検討、自立を促しそれぞれの時間、パターンに合わせてケア行っている。	排泄パターンを把握し基本的にはトイレ誘導をするように心掛けられている。また、ポータブルトイレは日中は直し夜間帯のみ居室に置き、羞恥心や臭いに対する配慮もみられる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために水分摂取量のチェック、確保に努め。主治医と連携し下剤の調整、排便コントロールを行っている。便秘時には病院へ報告、排便や浣腸の処置を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は入浴日を決めているが利用者さんの希望などがあれば調整出来るようにしている。利用者さんに合わせゆっくり入浴が出来るようにしている。	週に3回の入浴を基本とし、拒否がある際は声掛けや対応の方法を変えるなどし入浴を促すようしている。利用者の要望を聞き柔軟な対応ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの状態や生活習慣に合わせ、状況に合わせた休息の時間も設けている。昼夜逆転傾向のある方には日中覚醒をは有り、日光浴を行ったり、主治医と連携し眠前薬の検討を行い夜間良眠を図る事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された際にお薬の説明書を毎回、個別に薬局から出してもらっている。毎回、処方されるたびにそれを連絡ノートに付け職員の周知を図っている。説明書に副作用や用法についての説明がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、交代で職員が季節に合わせた行事を企画、実施している。生活歴を調査し大正琴をされている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っていつでも外出は困難であるが、職員の人員や天候に合わせ、臨機応変に行事や外出の機会を作っている。定期的に散歩やドライブを計画立てて実施している。	月に4～5回の行事の中でドライブなども組み込まれ外出の機会を設けている。外出の際に自宅や以前に勤められていた職場を通るなど個々の思いに寄り添う対応もされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は紛失の恐れもあると入居時のオリエンテーション時に説明し、高額なものや高額な現金は持ち込みは出来ないと留意事項にて説明しているが、家族さんと本人さんの理解の元、本人さんの納得金額で所持されている利用者さんもいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族さん、利用者さんの意向があればいつでも支援、対応できる体制は整えている。遠方の家族さんが定期的に電話をかけてこられるがいつでも本人さんとお話出来るようにしており、本人さんも家族さんも喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内や浴室内は床下暖房が設置しており、冬場も乾燥せずぽっこりと暖かく過ごせる。天窓や大きな窓からの明かりがホールに入っている。	木の温もりを大切にし天窓からは光が差し込み自然の明るさも感じられる。テラスでおやつ提供や敷地内でイモや梅などの収穫し加工するなど楽しみを提供する取り組みもされている。畳の間もあり、休憩やリラクゼーション等で使用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテレビ前にはソファを設置しそこに利用者さんが集まって過ごせる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時のオリエンテーション時には使い慣れたものや家具などの持ち込みも可能であると伝えている。居室内は写真や飾り物を設置されている方も居る。	危険物や火気以外は持ち込み可能で、テレビなどの家電を持ち込まれるケースもある。家庭での環境を再現し安心して個人のペースを保てるようになっている。ベッド、タンス、床頭台は備え付けられている。各居室には換気扇を取り付けられ臭いの対策もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールからは居室が見渡せられるような環境で死角も少ない、身体拘束も実施せず安全に自立したケアを提供するようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない